

ツインシティ整備に係るまちづくりへの

提 言 書

平成 18 年 11 月

ツインシティ整備に係る企業・大学懇談会

提 言

平成 18 年 11 月 9 日

神奈川県知事 松沢成文 様

ツインシティ整備に係る企業・大学懇談会

座長 産業能率大学経営学部教授

齊藤 進

ツインシティ整備に係るまちづくりへの提言について

本懇談会は、県央・湘南地域に立地する企業、大学、産業団体、行政機関など 47 団体の参画を得て、平成 16 年 12 月に設立会議を開催し、今日に至るまで約 2 年にわたり、多様な視点と発想から、ツインシティ整備に向けた幅広い議論を進めてきました。

このたび、これまでの意見を集約し、ツインシティ整備に係るまちづくりの実現に向け、必要な事項を取りまとめましたので、次のとおり提言いたします。

なお、ツインシティ整備の推進にあたっては、本提言について留意されるとともに、県民、企業や大学、行政の、三者の協働による都市づくりの実現に、努められることを要望いたします。

企業・大学懇談会から

ツインシティ整備に係るまちづくりへの提言

まちづくりへの提言
<交通アクセスについて>

その1 広域交流の連携を促進するネットワークの形成

首都圏の中でも主要な交通の拠点としての機能や立地条件を活かすとともに、ツインシティを核に南北や東西軸の広域交通の強化を図り、ヒト・モノ・カネ・チエが行き交い集積するネットワークを形成し、都市圏全体の利便性の向上を図ることが重要である。

幹線道路の混雑緩和のためには、通過車両はまちの中心部を通らないようにルート設定を工夫することが重要である。

将来、物流の流れが大きく変わることを想定し、特にインターチェンジ周辺には大規模な物流施設の整備が重要である。

その2 広域交流の拠点として必要な高次都市機能の誘導

広域的な交流の拠点には、教育・文化施設、医療・福祉などの専門性の高い施設、付加価値の高い商業施設やコンベンション施設¹、研究開発や国際的な業務・中枢管理施設²など、都市の個性化や拠点性の向上のために必要な高次の都市機能³の整備・誘導が重要である。

その3 利便性の高い交通アクセスの確保

交通計画は「モノを動かす」「人を集める」などまちづくりの方向性を明確にし、「物流のための道路づくり」と「人を動かす交通アクセス⁴」を別けて整理することが重要であり、その実現可能性・優先度を決め、選択と集中により利便性の高い交通アクセスをめざすことが必要である。

その4 公共交通を活用したまちなかの交通計画

まちなかの交通計画は、人力による移動を十分考慮するとともに、移動手段としての公共交通(将来的にはLRT⁵など)を最大限活用した、自動車交通に依存しない、効率的で利用しやすい交通システムづくりをまちづくりの当初から取り組むことが重要である。

その5 歩く楽しみのあるまちづくり

人の動きを作ってまちの活性化を図るには、「歩く楽しみのあるまち」として歩行者を重視したまちづくりの発想が重要であり、まちなかには、楽しみや賑わいを演出する環境や様々な仕掛けが必要である。

まちづくりへの提言

<環境との共生について>

その6 地域特性を活かした水とみどりのネットワークの形成

これまでの緑地を増やすだけの発想から、屋上緑化など建物の外部面を利用した緑化手法をまちづくりの中で活かすことが重要である。緑化にあたっては、その土地にふさわしい植生を選定し自然のサイクルが回るような里山的⁶な緑化の考え方が必要である。

緑地は、災害時における避難場所や延焼を防ぐグリーンベルトとしての機能も考慮し、保存すべき緑を見定め、どう保全するかという視点も重要である。

相模川と丹沢山系の自然環境を活かした空間の整備や、農業用水を利用した自然に親しむ環境の整備が重要である。整備にあたっては、治水・利水面も考慮し、また、多様な生態系を保全・再生して水とみどりのネットワークを形成する必要がある。

その7 クリーンエネルギーの利用促進

石油系エネルギーから脱却し、クリーンエネルギー（新エネルギー）⁷の広域的な利用を推進するには効率という点で評価が重要であり、エネルギーの供給面、効率面からみてクリーンエネルギーだけで企業活動を支えることは難しいことから、いかに貯めて上手に使うかを十分に検討することが必要である。

その8 環境負荷の少ない循環型社会の実現

循環型社会の実現をめざすため、地域の自己責任を明確にしてリサイクルを上手に利用するなど、環境への負荷を抑えるために住民や企業が一体となってシステムやルールづくりを行うとともに、省エネやクリーンエネルギーの取組みがランドマークとして意識できるまちづくりも重要である。

その9 農業との調和のとれたまちづくり

農地の必要性と多面的な機能や効果をアピールし、農業の継続という視点をまちづくりに反映させることが重要である。市民農園や農業用水をビオトープ⁸として整備するなど、農業に親しむ場を情報発信や次世代への普及・啓発活動の拠点として捉え、ビジネスとしての農業生産活動と連携したまちづくりの考え方も必要である。

都市と農地が混在する環境で良好な営農環境を確保するには、都市環境との間に一定の距離を保つなど、相互に調和を図ることが重要である。

まちづくりへの提言

< 新たな産業の創出・育成について >

その 10 先端技術産業の機能集積

新幹線からの視認性に優れた立地を活かし、環境関連の機能（環境関連企業）の集積を第一義的に考え、高度情報化社会の到来に向けた 21 世紀型産業の開発とマーケティングのハブ⁹となるようなまちづくりが重要である。

その 11 新たな産業創出・育成に必要な産官学連携

新たな産業やベンチャービジネス¹⁰の創出・育成には、共同研究・法律相談など産官学連携によるさまざまな支援が重要である。また、世界的テクノロジーと地域に密着する企業が相互に補完・連携する環境づくりも必要である。

その 12 産業振興に必要な規制緩和と優遇措置

産業振興や企業誘致の促進には、労働に関する規制の緩和が重要である。今後の産業活動にとって懸念される労働人口・就業人口の減少や、技術の継承などに対しては、女性や高齢者、外国人など多様な人材の活用を可能にする規制緩和が必要である。

環境共生のまちづくりの理念に合う取り組みを行う企業に対して、税制上の優遇措置や負担の軽減を図るなどの工夫を検討することが重要である。

その 13 企業間の交流と連携への支援

高度な知識と技術を有する多種・多様な企業が集積しているという条件を活かし、企業同士がコミュニケーションを図れる交流施設や実験施設、人材育成施設等を設けるなど、産業振興や企業間の交流と連携を促進するシステム（仕組み）の存在が大変重要である。

その 14 環境と共生したビジネスチャンスの創出

環境に配慮した魅力ある景観形成を図り、地域の資産価値を上げることによる観光の拠点という視点を、地域の活性化に寄与する新たなビジネスチャンスとして捉える、という発想も重要である。

まちづくりへの提言

<新しい生活スタイルについて>

その 15 高度情報化に対応したユビキタス社会の実現

将来、情報通信環境がますます高度化することを考えて、ツインシティ全域がユビキタスネットワーク¹¹で整備されることが重要である。また、ユビキタスインフラ¹¹の実現には、利便性とプライバシーを両立させるルールづくりも必要である。

その 16 都市の防災力・減災力の向上、災害に強いまちづくり

まちづくりでは、都市施設やライフラインの耐震性・防災性の向上、交通インフラの耐震性・多重性・代替性の向上と緊急輸送路の整備、災害時の情報システムの確保など、広域防災の拠点としての機能を確認し、災害による被害を軽減する減災の考え方を踏まえた、災害に強いまちづくりと都市基盤整備が重要である。

その 17 人口減少時代における活力あるまちづくり

人口減少が確実であるという状況にあってもまちの賑わいや活力を保持するためには、コンパクトで効率のよいまちづくりを進めていくことが重要であり、そのためのきちんとしたルールづくりが必要である。

その 18 魅力あるまちづくりに向けて

単に新しいというだけではない魅力あるまちの実現に向けて、環境との共生というまちづくりのテーマをもっと幅広く多層的に協議していくことが重要であり、全国的なモデルとなるようなまちづくりをめざすことが必要である。

1【コンベンション施設】

国際会議など大規模な会議や見本市を開催できる設備を備えた施設。

2【中枢管理施設】

企業の本社機能に代表されるような意思決定がなされ、それに基づいて物事が執行されるために必要な機能を持った施設

3【高次都市機能】

行政、教育、文化、情報、商業、交通、レジャーなど住民生活や企業の経済活動に対して、各種のサービスを提供する都市自体が持つ高いレベルの機能で、都市圏を越え、広域的に影響のある機能。

4【交通アクセス】

産業・住宅の立地における、交通の利便性。

5【LRT（ライトレールトランジット【Light Rail Transit】）】

路面電車のひとつ。路面電車の長所を生かしつつ、専用軌道化を図って定時性・高速性を高めるなど、利便性を高めた都市の新交通システム。欧米の多くの都市で導入が進んでいる。

6【里山的】

かつて人里近くにあり、生活と結びついた関係にあった自然環境のような性質をもったもの。

7【クリーンエネルギー（新エネルギー）】

太陽光、風力などの自然エネルギーや燃料電池などの新利用形態エネルギーなど、環境への負荷が極めて少ないエネルギーの総称。

8【ビオトープ】

動物や植物が恒常的に生活できるように造成または復元された生息空間。

9【マーケティングのハブ】

生産者から消費者への流通を円滑化するネットワークの中継点。

10【ベンチャービジネス】

新たな技術や高度な知識を軸にして、大企業では実現しにくい創造的・革新的な経営を展開するビジネス。

11【ユビキタス（ネットワーク・インフラ）】

いつでもどこでも、利用者が意識せずとも、情報通信技術を活用できる環境を実現するネットワークと、それを実現するための生産や生活上の基盤。

企業・大学懇談会の概要

企業・大学懇談会の概要

< 目的 >

ツインシティを活力と魅力ある都市としていくため、企業や大学の視点から、都市づくりに対する意見交換等を行い、必要に応じ提言等を行うことを目的とする。

< 構成 >

懇談会は、県央・湘南地域に立地し、ツインシティ整備に関心のある企業、大学、産業団体（商工会議所、商工会）及び行政（市町、県）により構成する。

・座長：齊藤 進 産業能率大学経営学部教授

・参加団体数：47団体(H18年10月現在)

所在地	名 称 (順不同)
平塚市	(株)大木種苗店、(株)岡村製作所平塚支店、神奈川中央交通(株) (株)米善本店、新栄商店連合会、全国農業協同組合連合会神奈川県本部 平塚商工会議所
藤沢市	慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス、清水建設(株)横浜支店湘南営業所 東京ガス(株)神奈川西支店、日本大学生物資源科学部 プレス工業(株)藤沢工場、藤沢商工会議所
茅ヶ崎市	電源開発(株)技術開発センター茅ヶ崎研究所、茅ヶ崎商工会議所
相模原市	相模原商工会議所
厚木市	鹿島建設(株)横浜支店、神奈川工科大学、(株)天幸総建 厚木商工会議所
伊勢原市	産能大学(座長)、伊勢原市商工会
海老名市	コカ・コーラセントラルジャパン(株) VS 海老名支店 海老名商工会議所
座間市	東芝機械(株)相模工場、座間市商工会
綾瀬市	(株)県央資源センター綾瀬営業所、綾瀬市商工会
寒川町	(有)クリーン寒川、富士徳広田酒店、(有)沢喜商事、(株)サンエーサンクス (有)真和電機工業、大日製罐(株)湘南工場、東洋技研工業(株) 日鉱金属(株)、東木材(株)、寒川町商工会
その他	N T T 東日本(株)神奈川支店

行政

平塚市	都市整備部
藤沢市	計画建築部
茅ヶ崎市	都市部
相模原市	経済部
厚木市	市政企画部
伊勢原市	市長公室
寒川町	都市部
神奈川県	県土整備部県土整備総務課環境共生都市整備担当

< 懇談会開催日程 >

設立会議	平成 16 年 2 月 17 日	第 5 回	平成 17 年 9 月 9 日
第 2 回	平成 17 年 2 月 7 日	第 6 回	11 月 25 日
第 3 回	平成 17 年 3 月 24 日	第 7 回	平成 18 年 2 月 10 日
第 4 回	6 月 8 日	第 8 回	7 月 18 日
施設見学	8 月 29 日	第 9 回	10 月 24 日